

居安思危 ～年末号～

居安思危 思則有備 有備無患

安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し
(出典「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」)

先日みなさんの大先輩である関西大学社会安全学部教授の河田恵昭先生の講演を聴く機会に恵まれました。河田先生はご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、日本の防災に関する authority です。講演では大阪で起こり得る大規模災害として考えられるものとして次の 5 つを挙げられました。

- 上町断層帯地震、生駒断層帯地震
- 南海トラフ沿いの地震と津波
- 台風による広域豪雨（淀川、大和川氾濫）
- 集中豪雨による浸水被害（寝屋川氾濫）
- 地球温暖化による高潮氾濫災害

そしてこれらの災害は単体で起きるのではなく、組み合わせられて広域・複合・長期化する大災害になる可能性が高いことも併せて仰っていました。

昨今、地球温暖化により風水害が激化傾向にあり、台風が大型化するとともに、集中豪雨やゲリラ豪雨がこれまで以上に頻発する可能性が高まっています。特に大阪では台風の激化による高潮災害や、川の氾濫による浸水被害について十分に注意する必要があります。(大阪は実は水害に遭いやすい土地柄だそうです。)被害を少なくするための対策は取られていますが、例えば川の堤防はかさ上げされていても、川にかかる橋や鉄橋が低い箇所があると、そこがウィークポイントとなって決壊する可能性が高まります(残念ながらそのような場所も実際にあります。)。想定を悠に超える災害が日本のあちこちで起こっている以上、災害対策の上を行く災害がいつ起きてもおかしくない状況にあることを理解し、自分たちの住んでいる場所の特性を知っておくことは災害から身を守るためには不可欠な要素です。

災害から身を守り、災害に対する抵抗力を高めるためにはまずは「知識」が大切です。そして「一度やってみる(例えばどこにどうやって逃げるのか、考えるだけでなく実際に行ってみる)」ことが大切です。やったことのないことは災害時には決して出来ません。それどころか、どうすれば安全に逃げられるかを思いつくことも出来ないかもしれません。そして、いざという時には、決断する「勇気」これも大切です。決断するためには正しい情報が必要でしょう。正しい情報はどうやって得ますか?それを知っておくことも防災です。

防災では「空振り OK」の考え方が大切です。大雨で川が決壊するかも!と避難しても、幸いにも決壊しないことがあります。けれども空振り OK です。むしろ welcome ではないでしょうか。空振りでなければ被害が出るのですから。

反対に避難勧告が出ていても「まあこのくらいなら大丈夫だろう」「前も大丈夫だったから、今回も大丈夫だろう」と根拠もなく（正常性バイアスが働いて）避難をしないことの方がはるかに危険です。実は避難勧告が出たときの避難率はおよそ4%しかありません。つまり、ほとんどの人が避難していません。

少し前になりますが10月21日に鳥取で大きな地震がありましたね。校内でもたくさんの人の携帯電話やスマートフォンから緊急地震速報が流れていました。みなさんはそのとき、身を守る行動を取りましたか？

本校では大きな地震が起こったときには、まずは身の安全をはかり、揺れがある程度おさまったら、安全を確保しながら避難経路に従ってグラウンドに避難することになっています。避難経路は春の避難訓練でも使用しましたからわかっていると思いますが、2年生はクラス替えで教室が変わっています。ちゃんと確認していますか？自教室以外にいることもありますから、移動教室などでホームルーム教室以外にいるときの避難経路も確認しておきましょう。

明日から冬休みです。クラブ活動や旅行、遊びに行くなどの予定はおうちの方と共有しておきましょう。どこに行く、何時に帰って来る、誰と一緒にいる、といった情報を共有しておくことも実は防災の1つです。お互いの所在がわかっているならば、何かあったときでも安全確認がしやすくなります。

そして地域に居る機会の多い年末年始は、隣近所の方と顔を合わせやすいときです。近所の方と会ったときには積極的に挨拶を交わしましょう。挨拶は礼儀としてももちろん大切なことですが、災害時にも力を発揮します。阪神淡路大震災のときに淡路島のある町でたくさんの方が生き埋めになりましたが、近所の人たちの早期の救助活動によってほとんどの方が無事に救出されたそうです。小さな田舎町だったその町ではご近所付き合いが密で、避難するときに隣近所同士声かけしたり、避難所にいない人を家まで探しに行ったりしたことが救助率の高さにつながったとのことでした。都市部に住んでいる私たちは地域とのつながりが薄くなりがちですが、災害時には地域の人たちと協力することが必要になります。普段から声を掛け合って顔見知りであることで、地域の防災力がグンと上がるのです。

河田先生は「災害が起こることを防ぐことは出来ない、けれども被害を減らすことは出来る、そして災害からの回復を早めることは出来る」と常々仰っています。普段当たり前にあると思っている「安全」は実は当たり前にあるわけではなく、「安全」であるために様々に工夫されています。

ぜひ家族と過ごすことの多い冬休みにこの一年を振り返ると共に、家族で防災について話し合ってみてください。そして出来ることなら、避難のシミュレーションがてら、一緒に地域を歩き、ご近所の方と挨拶を交わしながら、安全な箇所や危険な箇所について確認してみてくださいね。

Merry Christmas & Happy New Year

